

The Japan Association of Radiological Technologists
ネットワーク・ノウ

Network Now

JART情報
<http://www.jart.jp>

2018 No.505

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会
〒105-6131 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル31階
TEL. 03-5405-3612 FAX. 03-5405-3613



平成29年度 島根県原子力 防災訓練参加報告



平成29年11月17日(金)午前8時半から正午、および19日(日)午前8時から午後1時に、中国電力島根原発の事故に備えた原子力防災訓練を島根県・鳥取県・原発30km圏内の6市(松江市・出雲市・安来市・雲南市・米子市・境港市)が実施した。

本会からは島根県および島根県診療放射線技師会との3者協定に基づき、理事1人と災害対策委員2人が参加した。その他の参加機関は19機関、参加者830人であった。

島根原発2号機の事故が進展し、放射性物質が外部に放出されたと想定。避難指示が出された松江市・出雲市・安来市・雲南市の避難対象者は、30km圏内を出るときに避難退域時検査を受けることになる。今回、本会と島根県診療放射線技師会からの参加者は、避難退域時検査場所になった出雲市の東部高等技術校体育館で、避難してきた住民に対して検査手順やスクリーニングの意義について説明を行った。グラウンドでは避難車両の汚染検査や自衛隊による汚染車両の除染も実施されており、その様子はドローンや手持ちのテレ

ビカメラで撮影され、体育館の住民も見学できるよう工夫されていた。

本訓練は2日間で、中電・自衛隊・島根・鳥取両県警など、175機関から約4千人が参加した。今回から島根県内30km圏の一部住民の避難先となっている広島県・岡山県の計49市町村も、自治体間の情報伝達訓練に加わったようだ。われわれ技師会も、隣県同士の情報共有連携が重要になってくることを強く感じた。



公明党診療放射線技師制度に関する議員懇話会 開催される

平成29年11月17日(金)、衆議院第二議員会館第五会議室において、公明党「診療放射線技師制度に関する議員懇話会・政策要望懇談会」が開催された。本懇話会は平成26年2月5日に設立されて以来、定期的に会合を持っている。

今回は、公明党から副代表 古屋範子 衆議院議員をはじめ、

懇話会会長 石田祝稔 衆議院議員、幹事長 佐藤英道 衆議院議員、幹事 伊佐進一 衆議院議員、濱村進 衆議院議員、中野洋昌 衆議院議員、太田昌孝 衆議院議員、山本かなえ 参議院議員、横山信一 参議院議員、平木大作 参議院議員、新妻秀規 参議院議員、伊藤孝江 参議院議員、熊野正士 参議院議員

院議員、里見隆治 参議院議員らが出席、本会からは中澤靖夫 会長、熊代正行 副会長、小田正記 理事、野村俊正 事務局長、木村由美 専門職が出席した。

冒頭、石田会長よりごあいさつを頂いた後、中澤会長よりあいさつと本会の要望11項目の概要を説明し、以下の3項目に絞り、資料に基づき木村専門職が詳細な説明を行った。

- ・医療安全のための適切な管理体制の構築（医療放射線による被ばくの管理体制）
- ・診療放射線技師法の改正について
- ・柔道整復師法の一部を改正する法律案への反対について

診療放射線技師業務に関して多くの課題がある現状を踏まえ、今後も本会の要望を伝えるため、定期的に懇話会を開催していく。

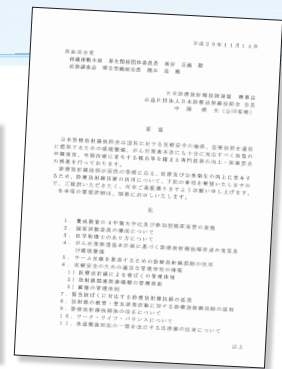


自由民主党「予算・税制等に関する政策懇談会」において要望書を提出

平成29年11月14日(火)に、自由民主党本部で予算・税制等に関する政策懇談会が開催された。参加団体は本会を含む11団体で、各団体に対しヒアリングが行われた。

本会からは中澤靖夫会長、熊代正行副会長、保川裕二専門職が出席し、医療および公衆衛生の向上に寄与するための診療放射線技師の活用について、11項目の要望を提出した。そのうち以下の3項目について、熊代副会長より説明を行った。

- ・医療放射線による被ばくの管理体制
- ・診療放射線技師法の改正について



- ・柔道整復師法の一部を改正する法律案への反対について多くの国会議員が出席され、活発な意見交換が行われた。

平成29年度 第1回 Ai認定講習会開催される

平成29年10月28日(土)・29日(日)の2日間、首都大学東京 荒川キャンパスで第1回Ai認定講習会が開催された。この講習会は、Ai(死亡時画像診断)を適切に活用するための基礎知識・技能の普及を目的に、平成23年より行われている。内容は、Aiに特化した放射線技術の専門分野だけでなく、Aiに関連する病理学・法医学・看護学の分野についても広く学べるようになっている。またAi認定診療放射線技師の資格を取得するための指定講習会でもある。

今回、全国から126人の受講者が集い、1日目は8科目、2日目は4科目の講義を受講した。最後に、確認試験を行い無事に全員が受講修了証を手にした。

当日は台風の影響で大雨が降りしきる中、受講者は講師の熱弁に耳を傾けていた。改正医療法による医療事故調査制度の導入により、予期しなかった死亡事例に対しては院内調査を行うことが義務付けられたが、Aiは中立性・公平性を確

保できる材料として重要な役割を持つ。その検査を担うのが診療放射線技師であり、AiをコーディネートできるAi認定診療放射線技師の活躍が期待される。Ai分科会では、各医療施設に最低1人のAi認定診療放射線技師が在籍している姿を目指して、今後も講習会を開催していく所存である。

今回は、平成30年1月20日(土)・21日(日)に名古屋市立大学病院(名古屋市瑞穂区)で開催する。

(Ai分科会 分科会長 樋口清孝)



第52回 大韓民国放射線士協会学術大会開催される

2017年10月27日(金)・28日(土)に、The K-Hotel SeoulでThe 52th Annual Meeting of Korea Radiological Technologists Association(第52回大韓民国放射線士協会学術大会)が開催された。本大会は3月に役員が改選され、Wan-hee Woo新会長になって初めての年次学術大会であり、アジア地域を中心に9カ国、約60人の外国人を含め、およそ2千人が参加した。日本からは中澤会長、児玉理事が参加した。

大韓民国放射線士協会(KRTA)の会員数は約43,500人、ソウル市のみで約8千人の会員がおり、全体の18.4%を占める。またソウル市内にある4大病院の一つSamsung Medical Center

(約2千床)では、新たに陽子線治療センターが稼働しており、韓国では放射線治療の充実に力を入れているとの話であった。



各国代表者会議の様子



各国代表者との記念撮影



陽子線治療室



Samsung Medical Centerの陽子線治療センター

また韓国では、病院で働く医療従事者の有給消化が問題となっており、有給日数は年間15日(3年以上の勤務で1日増しとなり、以降2年ごとに1日ずつ追加され、最大25日になる)であるが、半分程度しか消化されていないとのことであった。

韓国の診療放射線技師教育については、現在、45校の診療放射線技師養成校があり、23校が三年制の専門学校、22校が大学教育となっている。また専門学校の入学定員は1,580人、大学の入学定員は596人であり、大学教育への移行はまだ十分でないとの話であった。

中華民国医事放射線師国際学術大会開催される

2017年11月4日(土)に、高雄榮民總醫院で2017 TAMRT International Forum(中華民国医事放射線師国際学術大会)が開催された。昨年、中華民国医事放射線師会の役員改選があり、新たに蕭佳吉会長が就任して初めての国際学術大会であった。アジア地域を中心に13カ国、約80人の外国人を含め、およそ千人が学術大会に参加した。日本からは中澤会長、児玉理事が参加した。今回の国際学術大会のテーマは「診療放射線技師の現状と将来」であり、各国から診療放射線技師の現状と将来についての講演があった。日本からは児玉理事が“The History and Future Development of the Radiological Technologists in Japan”というタイトルで講演を行った。

台湾にはTWSRT(中華民国医事放射線師会)とTAMRT(中華民国医事放射線師会)があり、

TWSRTは学会、TAMRTは職能団体である。台湾の診療放射線技師は免許更新制となっており、免許有資格者は全員がTAMRTの会員になることになっているため、TAMRTの会員数は約6千人である。またTAMRTは台湾の行政院から補助金を受け、毎年、International Forum(国際学術大会)を開催している。レントゲン博士のX線発見が11月8日であることから、11月の第1土曜日に開催している。来年のTAMRT International Forumは11月3日に開催する予定であり、興味のある会員は、参加してみたいだろうか。



オープニングセレモニー



TWSRT会長とプレゼント交換



各国参加者との記念撮影

第7回 東北放射線医療技術学術大会 開催される!

公益社団法人日本診療放射線技師会
東北地域理事 永峰 正幸

平成29年10月28日(土)・29日(日)の2日間、リンクステーションホール青森で第7回東北放射線医療技術学術大会が開催された。本大会は、平成29年度(公社)日本診療放射線技師会東北地域学術大会ならびに(公社)日本放射線技術学会東北支部第55回学術大会との合同開催で、放射線技術者が集い、放射線技術の研究成果の発表を通して相互の親交を図ることを目的としている。

今回は、新潟を含め東北を一巡したことから、次へのステップの足掛かりとなる大会となった。大会テーマは「放射線技術のLateral thinking」とし、新たな発想は理論的道筋だけでは開かず、絶えず新鮮な思考を持ち、前向きに日々の問題に取り組む姿勢をうたったもので、須崎勝正大会長、船水憲一実行委員長の下、参加登録者532人、一般市民40人の参加を得て盛大に開催された。情報交換会には192人の参加があった。

特別講演では、弘前大学医学部保健学科名誉教授の岩崎晃先生に、「医学物理士」としての半世紀にもわたる教育・研究についての変遷を、軽快な津軽弁を交えてご講演いただいた。

市民公開講座は「今どきの放射線検査、治療とは」と題して、一般撮影・CT検査・画像情報など9分野の専門講師により、一般市民、主に中学生や高校生を対象に分かりやすく解説された。シンポジウムでは、今大会のテーマの下「業務としての撮影テクニック」と題し、一般撮影・CT・MRI・ポータブル・歯科領域の5人の講師により、日々行われている放射線検査のテクニックや工夫についての講演があった。

今回、女性活躍推進班「みちのくこまち」企画の「ゼロから学ぼう! 乳腺」シリーズの一環として、超音波装置のハンズオンセミナーと「はじめての乳腺病理」の講演を行った。

その他のハンズオンセミナーとしては、「Wilhelm Camp」と題し、技術学会東北支部による学会発表のスライド作成の体験学習を

行った。また「ザイオステーション2ハンズオンセミナー」では、実機を用いた画像処理を【基礎編】【応用編】に分け、基礎編では、3D画像の種類と特徴などを紹介、応用編では、通常のCTAよりワンランク上の画像作成方法を体験実習した。技術学会東北支部企画の「テクニカルミーティング」や東北地域放射線技師会企画の「ソリューションカンファランス」など、盛りだくさんの企画が用意された大会となった。

学術奨励賞は、青森厚生病院 廣津旺志氏の「CTの造影検査におけるエクステンションチューブの形状による注入圧の比較検討」、弘前大学医学部附属病院 船戸陽平氏の「胸部、腹部撮影における入射表面線量の評価と診断参考レベルとの比較」、八戸市立市民病院 赤崎元貴氏の「脳卒中初療体制の見直しに伴う放射線科体制の構築と成果」、市立秋田総合病院 鎌田伸也氏の「Radiology Information System (RIS) による「疑義照会」管理システムの構築と有用性」、仙台厚生病院 伊藤拓未氏の「腹腔鏡下胃切除術のための3D-CT支援画像」、山形大学医学部附属病院 中村昌隆氏の「撮影条件が局所被ばく低減機構に与える影響」、以上の6人が受賞した。



大会長あいさつ



記念撮影の様子



機器展示会場



情報交換会

第10回 中部放射線医療技術学術大会 開催報告

公益社団法人日本診療放射線技師会
中日本地域理事 山本 英雄

平成29年11月4日(土)・5日(日)の2日間にわたり、第10回中部放射線医療技術学術大会が、岐阜県岐阜市のじゅうろくプラザで開催された。本大会は公益社団法人日本放射線技術学会中部支部と中日本地域の各県(診療)放射線技師会の合同開催であり、大会長には、日本放射線技術学会中部支部 中村 学理事、副大会長は岐阜県診療放射線技師会 安田鋭介会長により行われた。

大会テーマは「人体を診る！—画像再構成の最前線—」とした。放射線検査や画像再構成法の進歩が著しいことと同時に、放射線の人体への影響に関して社会的関心が高く、医療被ばくが問題となっている状況の中、大会長をはじめとする岐阜県診療放射線技師皆さまの思いが込められた大会となった。

参加人数は、801人(会員628人、非会員57人、学生会員116人)。会場はJR岐阜駅と直結しており、交通の便も良く雨が降っても傘が要らず、会場もコンパクトで小回りが利き、快適に学べる施設環境で行われた。新しい試みとして事前参加登録を実施し、受け付けの混雑を最小限にすることができた。

大会内容は、一般演題151演題、特別講演1、特別企画1、シンポジウム1、女性活躍推進シンポジウム1、一般公開講座2、教育セミナー3、ランチョンセミナー6、広告協賛42社、展示協賛18社であった。

特別企画では「日本放射線技術学会の将来構想と現在の重点項目」に日本放射線技術学会代表理事 小倉明夫氏、「診療放射線技師の将来展望」に日本診療放射線技師会副会長 熊代正行氏、「中日本ブロック“Brilliant 7”発足について」にJART人材育成委員会 女性活躍推進班 吉川典子氏をお招きし、3人のそれぞれの立場から診療放射線技師が目指す方向性を示唆した。

特別講演は、石風呂 実氏による「臨床現場で求められる3D Primary Reading」、教育セミナーは、浅田恭生氏による「一般撮影のDRLの基本と活用について」、井田義宏氏による「CTの三次元構築と手術支援に対するJARTの教育制度」、加藤裕氏と川口裕氏による「MRI



開会式



意見交換会の様子



ランチョンセミナー



一般公開講座

における3次元画像の基礎と臨床応用」が企画され、テーマである画像再構成の最新技術について討論された。

一般公開講座では、戦国時代に関する研究で知られ、今年の大河ドラマ「おんな城主 直虎」で、時代考証担当の静岡大学名誉教授 小和田哲男氏による「おんな城主直虎とその時代」と、地元岐阜大学大学院医学系研究科 放射線医学分野教授 松尾政之氏による「粒子線治療の最前線」の講演が行われ、一般市民65人と技師で会場は大盛況であった。

意見交換会では、会場を岐阜キャッスルインに移し、総勢133人の参加を頂いた。岐阜県の名物料理や各県の銘酒、余興などのおもてなしの心でお迎えし、皆さまと共に楽しく過ごした。

今年は、織田信長公の岐阜入城、岐阜命名450年に当たり多くのイベントが開催され、駅前広場にそびえ立つ「黄金の織田信長公」に迎えられ、有意義な学術大会であった。

大会開催に際し、ご尽力いただきました関係各位に感謝して、報告と致します。

そして来年度の第11回中部放射線医療技術学術大会は、大会テーマ「照于一遇」と題して、平成30年11月17日(土)・18日(日)、富山県・富山国際会議場で開催する予定です。今大会同様、盛会に開催されますことをお祈り致します。

平成29年度 第3回 超音波実技講習会開催報告

平成29年10月29日(日)、本会事務所講義室で平成29年度第3回超音波実技講習会「腹部領域」が開催された。

本講習会は「今から始める超音波検査」と題して、超音波検査未経験または再チャレンジしたいと考えているミドルシニア・シニア会員を対象に、超音波検査をセカンドキャリアとして活用していただくことを目的として、実技を中心に構成されている。当日は受講者数25人、講師5人、実習インストラクター5人、実習用超音波装置5台と、充実した内容で行われた。

「肝」「胆・胆道」「膵・脾臓」「腎・膀胱・婦人科領域」「腹部大動脈・消化管」の5領域について、各30分の基礎講義の後5班に分かれ、午前90分と午後150分の2回の実技講習が行われた。実技ではプローブの持ち方や動かし方、対象臓器ごとの基本走査法やコツ、走査上の注意点やピットホールなど、受講者一人一人に講師が丁寧に説明された。本講習会は、未経験者や初心者にとって実技をメインとした大変有意義な内容で構成され、受講者が熱心に受講されていたことが印象的であった。

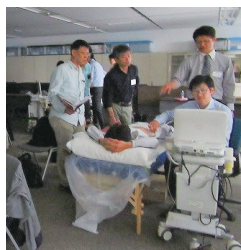
第1回および第2回超音波実技講習後のアンケートでは、

講義内容について90%以上の受講者から「満足」「やや満足」という回答を頂いている。また実技についてはもう少し時間が欲しいというご意見もあることから、平成30年度からは講義部分をe-ラーニングとし、その分、講習会当日は十分な実技時間を設ける予定となっている。次年度からの講習会に期待していただきたい。

日本診療放射線技師会の超音波講習会事業は、講習会で得た知識と走査技術を臨床業務に生かしていただくとともに、将来の就労のためのキャリアアップや在宅医療をはじめ、大規模災害における診療放射線技師の関わりを、超音波検査によって実現する期待も込められている。本事業がますます発展し、一人でも多くの会員が超音波検査に携わっていただくことを願う。

最後に、本講習会開催に当たり、講師・実習インストラクターを務めていただいた会員の皆さま、超音波装置を提供いただきました株式会社日立製作所ヘルスケアのスタッフの皆さま、日本診療放射線技師会関係各位に感謝を申し上げます。

(理事 江藤芳浩)



救急医療学講習会開催報告

平成29年11月5日(日)、本会会議室で標記セミナーが開催された。アドバンス診療放射線技師格取得に必須な科目であると同時に、医療従事者として医療機関内だけでなく、公共の場でも実践できるような技術の習得に役立つ講習会である。

日本救急医学会ICLS認定インストラクターの資格を有する講師の指導によって、胸骨圧迫、気道確保・換気、AEDの実習を行った。

業務拡大に伴う統一講習会にも一次救命処置の項目が含まれているが、本講習会では、呼吸管理実技や一次救命、救急医療の歴史・問題点などが加わり、非常に有意義な講習会である。



「救急医療学（実技）」講習会に参加して

内村 裕一

医療法人石井会 渋川伊香保分院 放射線課

参加者の声

11月5日（日）に、アドバンス診療放射線技師取得に必要な『救急医療学 実技』が日本診療放射線技師会事務局のある世界貿易センタービルで開催され、受講しました。

初めに、救急医療学の座学として「一次救命の歴史と心肺蘇生法のポイント」を講義していただきました。心肺停止状態の傷病者を発見した場合、最初に行うことは自分の身を守る周囲の安全確認です。万が一、危険な場所で発生した場合、二次災害が発生する可能性があるということを念頭に置き、行動することが重要だと思いました。またその場に居合わせた人が1つのチームとなり、早い段階で一次救命処置（BLS）を開始し、救命率を著しく低下させないことが最重要だと感じました。知っているようで知らないこともたくさんあり、充実した講義でした。

その後、実技に入りました。私は他施設4人の方とチームを組みましたが、全員初対面だったため、最初はぎこちない部分もありました。しかし、インストラクターの気さくな声掛けで、回を追うごとにチームワークも良くなり、楽しく取り組むことができました。

最初に「傷病者発見から胸骨圧迫」の実技を行いました。座学で理論的なことを丁寧に講義していただいたおかげで、スムーズに実施することができました。

次に「気道確保と換気」「AED」の実技を行い、何度も繰り返すことで非常にスムーズに実践できたと思います。全て

学んだところで、一連の動きをチーム全体で実施しました。ここで難しいと感じたことがあります。もし、院外で自分が第一発見者となった場合、応援に駆け付けてくれた方々に、一刻を争う中での確かな指示が出せるのだろうか。その方々がBLSの知識を持っていれば安心ですが、そうとは限らないため、私は冷静に状況判断ができるのかなと考えさせられました。そのためには、定期的に訓練を行うことが重要だと再認識することができました。

最後は「日本の救急医療体制と問題点」という内容の講義でした。

日本の救急医療の現場は『崩壊の危機にある』という話を聞き、現在の救急医療体制の問題点が分かりました。私たち診療放射線技師が救急医療の中でのべきことは、医師や看護師たちと受傷機転の情報を共有し、さまざまな情報を持って検査を実施することです。こうすることで、情報量の多い画像を医師に提供することができます。その結果、医師の診断の幅が増え、受傷者の救命に大きく寄与することができるはずです。

私は、アメリカ心臓協会（AHA）BLS-HCPを受講したことがあります。インストラクターは医師や看護師・救急隊員の方々でした。今回のように、インストラクター全員が診療放射線技師のBLS講習会は初めてでした。救急医療の現場で、診療放射線技師がどのような考えを持って対応すればいいのかなど、非常に有意義な講習会でした。このような機会を頂き、日本診療放射線技師会およびインストラクターの皆さまにお礼申し上げます。

医療被ばく低減施設認定取得セミナー報告

平成29年10月15日（日）、本会事務所講義室で標記セミナーが開催され、53人のご参加を頂いた。初めに、熊代副会長が「医療被ばく低減施設認定取得の意義」と題して、認定への取り組みは国際医療機能評価機構（JCI）認証において、医療安全の観点から「国際患者安全目標」および「施設の管理と安全」の審査項目に大きく貢献し、大きなアピールポイントであったことなどを講義された。続いて、佐藤洋一チーフサーベイヤーより「第1領域：行為の正当化」について、成田浩人チーフサーベイヤーより「第2領域：放射線防護の最適化」について、講義があった。その後の質疑につい

ては具体的な質問が多く寄せられ、十分な質疑時間が足りなくなるほど、大変有意義なセミナーとなった。

（文責：藤原理吉）



セミナー印象記

梶田 稔

春日井市民病院

参加者の声

大変参考になり、有意義な時間でした。今後の活動に役立てていきたいと思えます。

今回が初めてのセミナーということで、自分が思っていたより若い技師の参加が多いことに驚かされました。各施設が施設認定を目標として、実践的な行動に出ているということであり、また被ばく線量に対する患者の関心が高くなっている表れと考えます。当院も地域住民に対して、被ばく低減の意思をできるだけ早く表せるようにしたいと考えます。

また病院機能評価よりも詳しく提示しなければいけないことも多く、準備に時間がかかると感じました。特に、線量測定に関しては、撮影室などが多くなるほど難しいと感じます。

老婆心ながら、次回の参考になればと思うことが多少ありました。

まず、質問の中にもありましたが、全体の流れが分かる資料があるといいと思えます。

審査の申し込みからサーベイヤー訪問までの流れが、時間

軸で分かるもの。特に、最終の審査結果がどのくらいで通知されるのか(病院の規模も違うので難しいと思えますが、規模別にでもおおよその期間が分かるといいと思えます)。また認定が取れなかった場合、追加審査はできるのかなど、どのように対応すべきなのかが分かるといいと思えます。

そして“施設詳細記入用紙”“自己評価調査書”の見本もあればいいと思えます。今回の質問になかったことを考えると、すでに申し込みをしている施設の技師の方もいらしたと思えます。その中で、書類審査の合格基準はどうなっているのか。またアイソトープの投与量を実投与量とて審査を行うことは、ガイドラインの解説で説明はしてありましたが、技師会から、今後、アイソトープの投与量の基準をこれにするという内容で、各施設に周知した方がいいと思えます。

最後に、訪問時に必要な書類の一覧表などもあるといいと思えます。

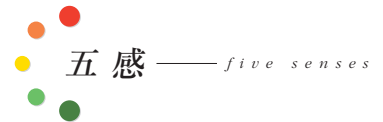
今回のセミナーでの質問事項は、次回も同じように出てくると思えます。

質問事項がどこかで閲覧できるといいですね。

とりとめのない内容になってしまい申し訳ありません。

林先生に学ぼう

シリーズ連載
series serialization



『いつやるか? 今でしょ!』というせりふで話題となり、塾の講師から一躍テレビの有名人になった林修先生。今やテレビに引っ張りだこですが、この賢人もすさまじい努力をしてきて、今の自分がいると言っています。

『努力は必ず報われる』の名言も、林流の考えでは少し不正解で、やみくもに打ち込めばいいのではなく、まず“正しい場所”に立たなければ、非常に効率の悪い努力をする羽目に陥ると言います。ほとんどの人が努力は量をやればいいと勘違いしている。量をやっている方向が間違っていれば、その分しか結果はついてこないということです。

この“正しい場所”が『自分のやりたいこと』と『自分が一番能力を発揮できること』との両方を兼ね備えた“場所”であると言っているようです。

著書『林修の仕事原論 壁を破る37の方法』の内容の一部を紹介します。

正しい場所に立つためには『根本は、好きなことを仕事としてどう選ぶか、という問題です。その分野が自分に適正があり、勝てる場所だと認識し、その技術やサービスに対して払われるお金に対して責任を取る。責任を取ることにに対してプライドを保てる。それが僕の考えるプロフェッショナルであり、僕の“仕事観”です』と述べられています。

自分の努力を主観的に評価することなく、客観的な評価の下で仕事を続ける。やりたい仕事必ずしも天職ではない。嫌いでも、そこで勝てると思ったならやるべきであり、一度始めたら全力でぶつかるべきです。嫌いだからこそモチベーションも上がる。必要なのは、好き嫌いを超越した、自分がお金を頂いている仕事へのプライドだけでいい、と解釈しています。

以下、表題を中心に紹介します。

- ・ 上手くいく仕事为天職、やりたいことにこだわりすぎない
- ・ 運に巡り合いたいならば、なんでも引き受けてみるという
- ・ 自分の好き嫌いなどという小さな物差しにこだわらないことが、運に巡り合う秘訣だ
- ・ やりたくない仕事に全力で打ち込むことが、やりたい仕事に自分を近づけてくれるという逆説
- ・ やりたいことにこだわりすぎるが故に、逆にやりたいことができなくなってしまうという逆説
- ・ 全力で取り組んだら、ときには開き直る
- ・ 「一流」を目指すことから全てが始まる

自分の仕事と適正、そして責任… 考えさせられますネ!

(文責:板東道夫)

INFORMATION

第4回 第34回日本診療放射線技師学術大会 山口への道 下関ってこんなところ!

実行委員 小田真一郎

(山口県診療放射線技師会 会誌広報担当常任理事)

伊藤博文とふぐ

函館大会でのアンケートでは500人近い方々から回答を頂きましたが、そのうち83パーセントの方が「下関」といえば「ふぐを連想する」と答えておられました。実際に、日本全国のふぐの2分の1が下関の南風泊(はえどまり)市場に水揚げされています。この南風泊市場は、下関市の南西端、彦島にあるふぐ専門の市場で、下関駅のホームから西を見て、狭い水道の向こう側が彦島です。今、まさに旬を迎えているふぐですが、今回は、ふぐと彦島に浅からぬ因縁のある伊藤博文の話です。

伊藤博文は、県東南部の非常に貧しい農家に生まれ、萩で最下層の武士の養子となり、身分の隔てなく学べる松下村塾に通い、高杉晋作や井上馨に出会いました。その後は、晋作たちの弟分として過激な攘夷運動に加わったかと思うと、翌年には井上馨や他の3人と共にイギリスに留学(密航)し、欧州の進んだ文明を目の当たりにして開国に目覚めます。前号で紹介した晋作の功山寺挙兵に際しては、他の各諸隊の隊長が尻込みをする中、力士隊を率いて真っ先に晋作に合流しました(本人は、このことが人生唯一の「誇り」だったと語っています)。

維新後は留学で覚えた英語を買われ、木戸孝允の後ろ盾もあり新政府の要職を歴任し、ついに元勳と呼ばれるまでになりました。明治18年(1885年)には初代内閣総理大臣に就任し、明治22年に発布された大日本帝国憲法の起草・制定の中心となった人物でもあります。

すでに元勳と呼ばれるようになった伊藤博文が関門海峡から彦島を眺めた時、数十年前の4カ国艦隊との講和会議で、全権の晋作に通訳として随行したことを思い出し、「あの時、高杉さんが彦島の租借を断固として断っていなければ、今頃は彦島が香港になっていただろう」と語ったそうです(異論も多い)。

また明治20年、当時、内閣総理大臣の伊藤博文が春帆楼に宿泊した際、しけで漁ができず、困った主人が御禁制のふぐをお膳に出しました。以前からふぐの味を知っていたはずの伊藤博文が「これはうまい。禁止するのはもったいない」と絶賛。豊臣秀吉が発令して以来、明治政府もふぐ食禁止令を継続していましたが、翌明治21年、伊藤博文の肝いりで、春帆楼がふぐ料理公許第1号として県から正式に許可されたと伝えられています。さらにこの春帆楼では、明治28年、伊藤博文が全権大使となって、日清講和条約(下関条約)が調印されています。そんな伊藤博文の千円札も発行が停止されて30年以上たっていますので、今の若い方たちは、山口県出身の初代総理大臣の顔にあまりなじみがないかもしれません。



ところで、下関のふぐはなぜおいしいのでしょうか? 全国各地から南風泊に水揚げされたふぐは、彦島に200人以上いるふぐ処理師(ふぐ料理店を開ける資格)により、生きたまま毒を含む部位を外さばくことで、鮮度が保たれます。新鮮な身は2~3日寝かせることでうま味が増しますが、コラーゲンを多く含むふぐは数日たっても弾力が残ります。そしてこのコラーゲンにより、鍋で煮たときも身がプリプリになります。また、はえ縄漁の普及で、全国的にふぐが取れるようになった昭和40年ごろから、危機を感じた下関のふぐ料理人たちは、勉強会を開催し技術を磨き合い、その結果、今日でもふぐのおいしさを最高に引き出す技術が継承されているのです。

本会の動き

医療安全対策委員会より

医療安全対策委員会のメンバーは6人で、本年度は放射線診療の安全確保に係る事業として3つの活動を行っている。

1)「放射線業務の安全の質管理マニュアル」の活用を推進する
本マニュアルは、平成19年5月に放射線業務の質の向上

と医療安全に寄与するため、放射線関連3団体(公益社団法人日本放射線技術学会、公益社団法人日本診療放射線技師会、一般社団法人日本画像医療システム工業会)が連携して、合同プロジェクト班を立ち上げ策定している。ただ、チェック

シートが作成から10年がすぎ、診療内容や機器の発展を含めた新しい検査技術などもあり、内容の見直し改訂が必要になった。そこで平成28年5月に、3団体の医療安全関連委員会が現行のチェックシートを改訂するため、再度合同班を立ち上げ、各モダリティに担当委員を決めて内容を見直した。その際、これまでのチェックシートが施設の安全管理体制を確認する内容が多く、会員個人に利用されることが少なかった点を踏まえ、本チェックシートでは、会員個人が医療安全活動の必要性を理解し、自己評価を通して、医療安全行動の質の向上を図ることを基本コンセプトに、自己チェックできる内容とシステムに変更した。

昨年8月1日、3団体が足並みをそろえてホームページ上に掲載することができた。

本マニュアルの啓発活動として、第33回函館学術大会において「あなたの医療安全度は？-安全の質管理マニュアル改訂にあたって-」をテーマに医療安全シンポジウムを開催し、マニュアル改訂の経緯・実施結果を報告した。参加者も多く、関心の高さがうかがえた。

2) 感染対策マニュアルの作成

医療安全の中でも感染管理については、われわれ診療放射

線技師にとって弱い部分ではないだろうか。院内の感染対策委員会やICT(感染予防対策チーム)は医師・看護師が中心となっており、技師が参画している施設は少ない。放射線部門は特殊な装置を扱っており、われわれ独自の感染対策の必要性を感じ、本年度は感染対策マニュアルの作成に取り組んでいる。

3) I/Aレポートシステム運用

全国から放射線業務に関するインシデント・アクシデントのデータを集め、分析し、放射線業務における医療安全行動の質に向上につなげていきたい。先に完成した管理マニュアルと結び付け、会員個人の質が向上することが組織の質の向上につながると考える。

入力フォーマットは本年度中に完成する予定であり、次年度から各都道府県に依頼しデータの収集を行う。

最後に、患者にとって安全・安心な医療技術を提供するために、放射線領域で取り組んでいる診療放射線技師の医療安全管理(安全・機器・感染)がインセンティブとして評価されるよう、ご協力をお願い致します。(文責:山本英雄)

1月・2月の講習会などスケジュールのご案内

INFORMATION

■ 業務拡大に伴う統一講習会：	北海道①	1月27日(土)～28日(日)	東京①	1月20日(土)～21日(日)
	新潟	1月21日(日)・28日(日)	静岡	1月21日(日)・28日(日)
	香川	1月27日(土)～28日(日)	東京②	1月28日(日)・2月4日(日)
	岩手	2月3日(土)～4日(日)	愛知	2月10日(土)～11日(日・祝)
	島根	2月10日(土)～11日(日・祝)	北海道②	2月11日(日・祝)～12日(月・振休)
	茨城	2月11日(日・祝)～12日(月・振休)	熊本	2月11日(日・祝)～12日(月・振休)
	沖縄	2月11日(日・祝)～12日(月・振休)	北海道③	2月17日(土)～18日(日)
	群馬	2月17日(土)～18日(日)	千葉	2月17日(土)～18日(日)
	和歌山	2月17日(土)～18日(日)	広島	2月17日(土)～18日(日)
	岡山	2月17日(土)～18日(日)	徳島	2月17日(土)～18日(日)
	福岡	2月17日(土)～18日(日)	鹿児島	2月17日(土)～18日(日)
	山形	2月24日(土)～25日(日)	神奈川	2月24日(土)～25日(日)
	三重	2月24日(土)～25日(日)	岐阜	2月24日(土)～25日(日)
	大分	2月24日(土)～25日(日)	佐賀	2月24日(土)～25日(日)
	茨城	1月27日(土)	北海道	2月4日(日)
■ 基礎技術講習(MRI検査)：	北海道	2月25日(日)		
■ 基礎技術講習(一般撮影)：	東京	1月20日(土)		
■ 医療画像情報精度管理セミナー：	愛知	1月20日(土)～21日(日)		
■ Ai認定講習会：	東京①	1月22日(月)	東京②	2月26日(月)
■ ナイトセミナー：	大阪	1月27日(土)～28日(日)		
■ マネジメント研修会：	愛知	1月28日(日)		
■ 読影セミナー：	東京	2月16日(金)		
■ 放射線取扱主任者定期講習：	大分	2月17日(土)		
■ 被ばく線量適正化講習会：	秋田	2月18日(日)		
■ 放射線機器管理地域研修会：	埼玉	2月18日(日)		
■ 「看護学」(実習)講習会：	愛知	2月24日(土)		
■ 「救急医療学」講習会：				

事務所案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。

ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日(7月13日)および年末年始(12月29日～1月3日)は執務致しません。